

授業科目名	授業形態	単位数	担当教員名
保育内容 表現	演習	1 単位	湊田 陽子

記載不要

#### 授業の到達目標及びテーマ

テーマ『保育所生活、子ども園生活、幼稚園生活での、子どもの表現を育てるための保育者の役割』

- ①子どもたちの「創造性を豊かにする」に相応しい保育現場での幼児の生活と保育者の役割を、説明できる。
- ②保育全体をとらえる中で、「子どもたちの創造性を豊かにする」指導能力や援助の方法を記すことができる。
- ③年齢に応じた身体発達と表現発達を説明できる。

#### 授業の概要

幼稚園教育要領や保育指針の領域[表現]‘感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、表現する力を養い創造性を豊かにする’ことが、教育基本法第一条の「人格の完成を目指し」に、どのように結びつくのかを講義し、その後、講義やグループワークを通して、就学前の子どもの発想や想像力、表現力および感性がどのようなことなのかを理解を深めていく。そして、幼稚園や保育所生活の中で子どもたちが創造性を豊かにできる、人的環境、物的環境の設定や指導法や援助法を、年齢ごとに、DVDなど視聴覚教材も用いて講義する。

#### 【全体の授業計画・内容】

第1回 保育・教育の原理と保育内容「表現」

第2回 保育内容「表現」のねらい

第3回 感性とは何か

第4回 保育園生活・幼稚園生活での表現

第5回 身近なものに触れることと感性、創造性そして表現の育ち

第6回 自然との関わりと感性、創造性そして表現の育ち

第7回 生活する中で音を聴くことと感性

第8回 保育内容「表現」の内容①②③④

第9回 保育内容「表現」の内容⑤⑥⑦⑧

第10回 絵をみる行為から子どもの感性、創造性そして表現を育てる支援

第11回 1歳児クラスの身体発達と表現発達

第12回 2歳児クラスの身体発達と表現発達

第13回 3歳児クラスの身体発達と表現発達

第14回 4.5歳児クラスの身体発達と表現発達

第15回 創造性を育むことを視点にした、年齢に応じた関わり方

予習:授業1回目の授業が始まる前に、教科書1章通読し、2から7回目の授業前には、予定している授業の部分の教科書を読み深めてくること。8から15回目の授業予習については、前の授業の終わり時間に予習について説明を行う。(各回の予習時間目安【0.5時間】)

復習:教科書と配布プリント、ディクテイクしたノートを見直し、授業内容について理解を深めておくこと。(各回の復習時間目安【0.5時間】)

#### 【学習のあり方】

教員の講話では、実習での子どもの姿や自分の幼児期の体験や思いでと重ねあわせたり比較したりしながら聴講し、ノートは、講話や板書のポイントをつかんでとり、グループワークでは、友だちと積極的に考え、行動し、問をもった時には、その疑問を全体の前で投げかけるなど、能動的な授業参加を望む。

机の上に鞆を置いたり、スマートフォンなどを教員の指示した時以外に使用したりせず、私語はつつむように。

**【成績評価】**

「期末試験」:筆記試験(40%)

「平常点」:ミニレポート(30%)発表(15%)

「その他」:提出物(15%)

**【課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法】**

毎回提出するミニレポートに添付する。

**【テキスト】**

『保育と表現』石上浩美編著 発行所 嵯峨野書院

**【参考文献】**

『0～5歳児の発達と保育と環境がわかる本』大竹節子・塩谷香 監修 ひかりのくに株式会社

『保育の表現技術実践ワーク』今井真理編 保育出版社

『幼稚園教育要領』『保育所指針』

**【実務経験の有無】**

保育所での保育士、幼稚園での教諭、音楽教室での講師(乳幼児の集団活動)の勤務経験で得た、子どもたちの表現行動を含めながら、授業を進めていく。